

きぬのはの廣きを、四かくに四はうに一重にて御座候つる、おもゑろくねりぐりにて打たる物にて候、口にぬひく、み候、ひきしめかやうなる物に候、今は寸法知たる見たる物もまれに候か、

〔道照愚草〕若君様御ふくのもくろく、引合たつに調進、年始の事也、一御おり物一、一御ぬひ一、一御はく一、一御おりすぢ一、一御そめ小袖一、一御はた二、一御おび二すぢ、一御ゆかた一、以上

〔成氏年中行事 正月朔日〕

一 公方様成氏御上下二具、御紋松、又一具ノ御紋ハ桐、松ノ御紋ハ大御所様持氏ヨリ參御吉

例也、

一 御小袖ハ定ル事ナシ、御隨意也、其以下ハ皆カケ萌黄也、

一朝ノ御祝略次ニ御梳飯略公方様御直垂、御紋ハ桐、二重淺黄、白御小袖ニ、子リノ大口ヲメ

サル、御一家以下ノ奉公老若、直垂ニテ出仕、

一 公方様略内之御梳飯始也、仍御袋様、上臈、中臈、下臈、如朝皆々御參、

一 公方様御裝束ハ、表ノ御祝同前、御袋様并上臈様ハ御衣召サレ、御荷用之方々ハ、上古ハ引付之衆、御梳飯御荷用ヲモ御免アリ、近年被破之、次ニ中臈下臈之裝束ハ、ユマデ裳袴ヲ召レ、自一日夜ニ入、至十五日同前、

一同二日、朝御祝如朔日、公方様御單物、褐地、御紋桐、御小袖ハ御隨意也、御袋様以下、御裝束、定事ナシ、紅隔子ハ御三臺様、上臈様ノ外ハ不召、其外ハ摺繪書、縫物、織物、以下可爲御隨意、但臈粉入等之織物、香地、朽葉、魚龍貫、白薄色之練貫、青練貫、黄練貫、朽葉練貫等、女房被、召事ナシ、尼公之御衣裳也、男ハ何ヲモ可爲、次練貫之廣小袖、公方様御女房様可被召、童體又兒喝食之外ハ、依爲御法